今回の題材は『火の鳥』。

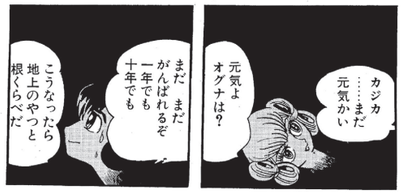
生命の尊厳を問いかけるこの作品が珈琲で表現されます。

手塚治虫作品の中でも難解とされる「火の鳥」を珈琲で表現するために、約30軒の珈琲屋が宝塚に集まります。

難解な作品をそれぞれの珈琲屋がどのように解釈し、珈琲としてどのように表現されるのか、その挑戦をぜひ体験してください。

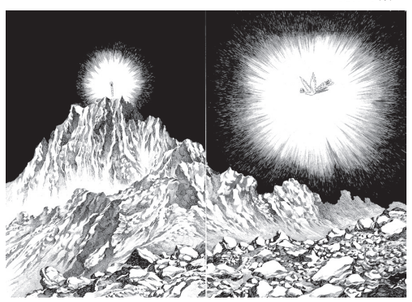
物語は、全12編。過去と未来の時代を行き来しながら進む―

黎明編

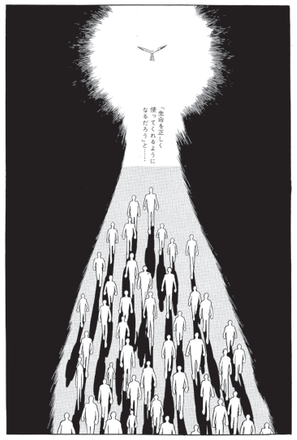


ヤマト編

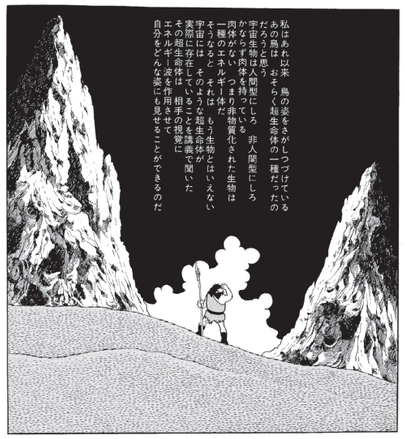
鳳凰編



復活編

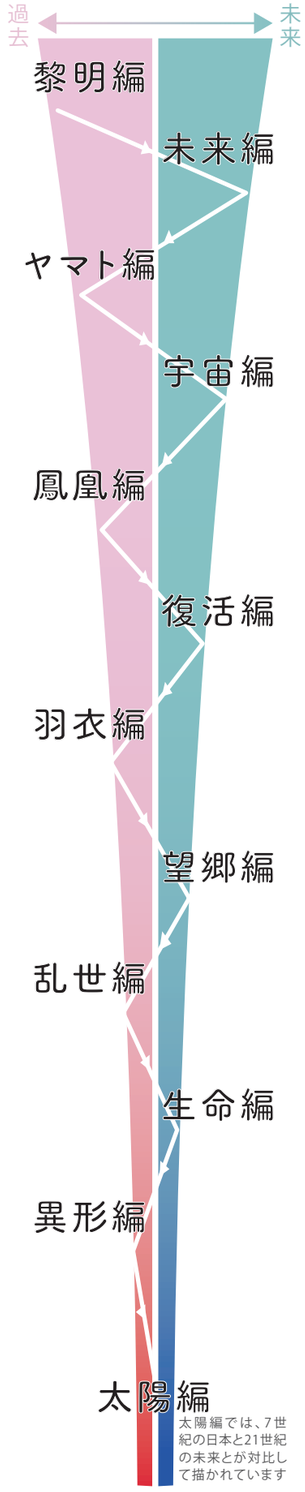


未来編



宇宙編

「生命を正しく使ってくれるようになるだろう」と……



太陽編では、7世紀の日本と21世紀の未来とが対比して描かれています

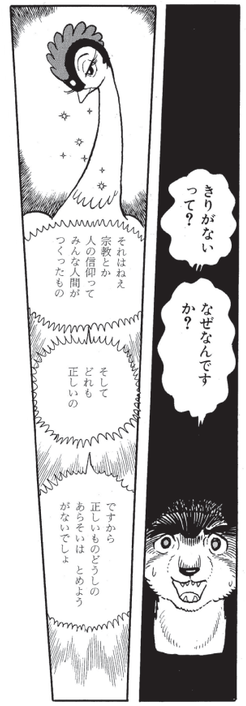
羽衣編

乱世編

望郷編

生命編

異形編



太陽編

©手塚プロダクション